

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	たいしのいえ		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和7年4月30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13 (回答者数)	10
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和7年4月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童が楽しんで、満足して利用してくれていること。	当教室は不登校児も来所していて、静かな環境を望んだり、集団行動を嫌う児童がいる。こうした児童には「個別」で対応し、丁寧に関わりを持っている点。	パート職員を増やすなりして関わる大人を増やしていきたい。
2	運動スペースを設けて、体を動かす機会を作っている	どうしても音で出るので静かに過ごしたい児童に対して、声がけや場所の確保をして、動きたい児童、静かにしていきたい児童の気持ちを汲んでいく。	「おもいやり」を持つことの大切さを伝えていく。ソフト面ハード面共に充実させていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	まだ開所一年目で会社内でのルールやルーティンが未確定 チームとしての連携	管理ソフトの変更など、運営の仕方に変化があり、適応に苦慮することになった。 職員が変わったりして、意思疎通や連携がうまくいかない部分があった。	ルーティン作りをし、職員に理解してもらう。 言葉を交わす機会を増やし、オンライン・オフライン共に話し合い、意見を言う場を増やしていく。
2	利用する年齢層が小学生から高校生のため「皆で何かをする」という意識が低く、仲間意識が育ちにくい。	高学年になればなるほど、それぞれのグループで固まる傾向がある。	職員が間に入り、交流が生まれるよう働きかける。
3			